



〔山陰海岸国立公園〕
但馬海岸（豊岡市）
（ジオパーク）

第1章 はじめに

1 趣 旨

- 兵庫県は、中国山地を中心に形成される起伏に富んだ地形、日本海型から内陸型、瀬戸内型といった多様な気候、加えて、中山間地域と都市域を有し、それぞれの地域ごとに特徴ある自然環境や生態系が形成されています。そこには様々な個性を持った生物が生息・生育し、それらがもたらす多くの恵みが私たちの暮らしを支えてきました。
- しかしながら、近年、開発行為、自然に対する人の働きかけの縮小、侵略的外来種の侵入、野生鳥獣の被害、プラスチック汚染、気候変動など、様々な顕在化する環境課題により、生物多様性がこれまでにない危機にさらされています。
- 兵庫県では、こうした環境課題に適切に対応するとともに、生物多様性を守り、その持続可能な利用に向けて取り組むべき行動指針として「**生物多様性ひょうご戦略**」をとりまとめました。
- 兵庫の豊かな生態系を未来に引き継ぐため、私たち一人ひとりが生物多様性について正しく理解して主体的に行動していけるよう、本県では、当戦略に基づき、県民の皆さんや市町、地域団体、企業、教育・研究機関など多様な主体と緊密に連携して取組を進めます。



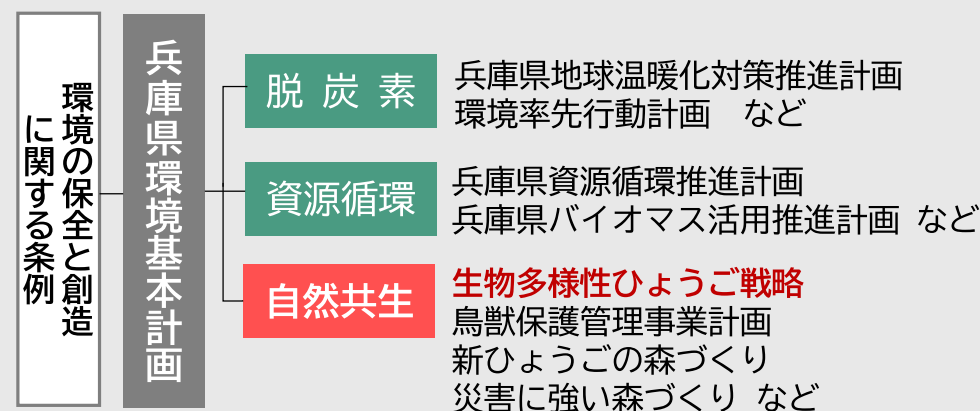
イヌワシ

豊かな生態系が息づく上山高原（新温泉町）

2 戦略の位置づけ

- 生物多様性基本法第13条の規定に基づく、兵庫県内における生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する地域戦略
- 兵庫県環境基本計画における自然共生分野の具体化を図る行動指針
- ひょうごビジョン2050におけるめざす姿「生命の持続を先導する社会」の実現に向けた個別計画

（参考）兵庫県環境基本計画と生物多様性ひょうご戦略との関係



3 戦略の期間

- 2025年度から2030年度までの6年間

4 国内外の動向

- 近年、生物多様性を巡る国内外の情勢はめまぐるしく変化しています。
- 2010年にCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)で採択された「愛知目標」(20の個別目標)について、完全に達成できたものがなく、生物多様性の損失*が続いているとされたことから、COP15では、それに代わる世界目標「**昆明・モントリオール生物多様性枠組**」が2022年に採択されました。
- そこでは「2030年までに自然を回復軌道に乗せるために、生物多様性の損失を止め、反転させる」という**ネイチャーポジティブ(自然再興)***の考え方のもとに、「30by30 (サーティ・バイ・サーティ)」と呼ばれる「2030年までに陸と海の30%以上の保全をめざす」など23の行動目標*が新たに設定されました。
- 「**生物多様性国家戦略2023-2030**」*もこの国際枠組に対応したものとなっています。

* 「生物多様性の損失」 * 「ネイチャーポジティブ」
 * 「23の行動目標」 * 「生物多様性国家戦略2023-2030」

👉 資料編77頁



COP15 (撮影：環境省)

世界の動向		国内の動向		本県の動向	
(環境問題への取組が本格化)					
1992年	「地球サミット」と呼ばれる国際環境開発会議が開催 「生物多様性条約」が発効	1993年	「生物多様性条約」締結 初の「生物多様性国家戦略」策定 「生物多様性基本法」制定(地方公共団体に地域戦略の策定を義務付け)	1995年	「環境の保全と創造に関する条例」制定
1993年		1995年		2009年	
2008年		2008年		2009年	
2010年	COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)において、生物多様性の損失を止めるための20の個別目標(=愛知目標)が採択 国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択 パリ協定における気候変動の国際枠組が発効	2012年	「生物多様性国家戦略2012-2020」策定	2014年	「生物多様性ひょうご戦略」改定
2015年				2014年	
2016年				2019年	
2021年 ～ 2022年	COP15(生物多様性条約第15回締約国会議)において、新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択	2022年	「生物多様性国家戦略2023-2030」策定	2022年	「ひょうごビジョン2050」策定